

株式会社 テック・エンジニア

会社概要

本社 山梨県大月市梁川町綱の上2319番地

設立 平成2年4月

代表者 小俣 一義

従業員 18名（東京連結）

登録 測量業・補償コンサルタント

URL <http://www.sokuryoya.co.jp>



本社

創業24年

昭和61年3月に個人事業者「テック測量舎」として測量業界へと立ち立ちました。そして、平成2年4月には現在の登記名である「株式会社テック・エンジニア」として正式に事業を開始し、早いもので会社創業から今年で24年を数えます。

始まりは小屋から

思い返せば、まだ個人事業者であった当時は営業から測地作業、製図作業、納品までの全般的な業務をひとりで行っていました。設立当初から、設備投資を積極的に行い、当時としては画期的なデバイスを早期に導入するなど、先進的な測量技術を求める姿勢で日夜業務に没頭していた日々が今では懐かしく思われます。

もう本当に遠い昔のように感じられてしましますが、当初は測量と名がつけば何でも貪欲に引き受けていたものでした。主に国鉄の用地図（用地改測図）作成の仕事などを下請けで引き受け、手元としてアルバイトを雇い現場に出るといった形を取っており、私は名実ともに個人事業主でした。伐採や位置出し、60Kgもある国鉄杭の建植、プロット、トレースから青焼きにいたるまでをひとりで行ない、忙しいながらも充実していた時代であったと感慨深く思います。

先進性を追い求める

事業の効率性を上げるために、当時まだ出始めの電子野帳、また個人規模では持たないA1プロッター及び最新のプログラムを導入しました。確かに、これらだけでも当時の個人事業主としては十分すぎるほどの設備を整えていたと思います。ただし、当時A0ロングサイズの図面を作成するにあたり、カードリッチにプロットするマイラー図だけは厚木のデータセンターへ外注しておりました。そして、厚木へと通う億劫さとあまりの効率の悪さにととう耐え切れなくなり、私はついにA0のプロッターまで買い揃えてしまいました。

そうした個人事業主としての事業を展開する日々を重ねているうちに、自治体の指名も受けられるようになりました。そして、平成2年4月、法人化し、現在の「株式会社テック・エンジニア」に組織形態を変更しました。それ以来、会社の社員の数も少しずつ増え、今日では日興コンサルタント株式会社と連結で17名の社員を擁しています。

しかし、社員の数が増えようとも、かつての先進デバイスの導入と同じように、今なお先進的な測量技術を求める姿勢を崩すことなく、積極的な設備投資と熱心な社員教育を通じて、更にその姿勢を会社の理念・組織文化とするべく努力をしています。

独立自尊の精神を

また、私が個人事業主の頃そうであったように、社員にも測量事業者に求められるあらゆる業務を全般的に行うよう指示をしています。社員であっても、「測量屋」としての独立した個人の力が求められる時代であると私は感じています。

かの福沢諭吉がモットーとするところの「独立自尊」の精神を規範とした測量技術者を私の会社から排出していきたい。そうした思いを胸にあの小屋から事業を始めた頃の精神を忘れることなく、社員と共に少しでも社会に貢献できる会社を目指したいと思います。

株式会社 武揚堂

会社概要

本社 東京都中央区日本橋3-8-16

設立 昭和12年2月11日

代表者 小島 武也

従業員 80名

登録 測量業

URL <http://www.buyodo.co.jp>

弊社は明治30年に創業し、現在113年を迎えています。創業当初は地図や測量とはまったく無縁で、出版社としてスタートしています。

当時は仏教辞典や軍用図書を出版しており、軍とのつながりから「武」を「揚」げるという意味で「武揚堂」という社名にしたといわれています。

地図と関連を持つようになったのは日露戦争以降になります。順調に業容を拡大していた様ですが、太平洋戦争が終結し、大きな転機を迎えることとなります。最大の顧客であった軍が解体され、社屋や商品がすべて消失し、社員も失って文字通りゼロからの再出発となりました。

戦後は地図の販売から始まり、教育出版・道路地図出版を立ち上げ、当時はその分野でのパイオニアとなりました。

更には道路行政への取り組みが必須であると考え、印刷所の開設と地図調製の業務を開始し、現在に至っております。

事業分野

弊社は地図調製を主力事業としています。国や地方自治体を中心に、特注の地図を作成しています。また、地理空間情報を活用しGISシステムを構築しています。

さらには周辺事業の拡大という事で、ポスターやカタログなどの一般印刷やバスラッピングなどの屋外広告も事業として行っています。

さらには地理空間情報の表現方法としてメディアユニバーサルデザインやWeb制作および翻訳業務を事業として行っています。

現在の環境

現在は地図調製業を主力事業としていますが、外部環境の変化は凄まじい勢いで進行していま

す。地図の作成方法も旧来のアナログ手法からデジタル手法へと変わり、それに伴い他業種からの参入も増えており、競争は激化の一途をたどっております。更には地理空間情報もインフラ化され、人々の生活に無くてはならないものとなってきています。

■次の100年に向けて■

地図調製というと、どうしても地図印刷という事にとらわれ、成果物という「モノ」にとらわれてしまいます。弊社は「モノ」から「コト」へと発想の転換を図り、お客様の考える「コト」を実現し、お客様の価値を高めることがわれわれの使命であると考えております。

今まで地図調製業者として地理空間情報の利活用方法を常に探ってまいりました。今後は地理空間情報がインフラとしてますます人の目に見えない形での利活用が求められていくと思います。

顧客や社会の声を聴き、地理空間情報を駆使して人々の生活や社会に貢献できる会社になりたいと考えています。





タマヤ計測システム株式会社

会社概要

本社 東京都品川区南大井6-3-7

創業 延宝3年（1675年）

設立 明治34年3月

代表者 葛西 誓司

従業員 20名

URL <http://www.tamaya-technics.com>

当社の創業は、「玉屋」の屋号で眼鏡販売を手がけたことに始まります。そのモットーは、「正確に捉える」ことでした。

当時海外からの伝来品であった眼鏡を、ただ単に販売することに留まらず、眼鏡を使うお客様の立場にたって、縁（フレーム）とレンズを調整し、常に正しい焦点距離を保ち、目に負担をかけない安全で精度の高い眼鏡の提供に心がけてきたのです。

そして「正確に捉える」ことへの探究心と技術の蓄積によって眼鏡から計測器の領域へと、その扱う商品も広がりました。そのきっかけは、六分儀との出会いでした。

18世紀半ば（1757年）に八分儀の改良型としてイギリスで発明された天文航法用の機器六分儀が日本に伝わったのは、1780年頃だと言われていますが、鎖国時代にあって遠洋航海が禁止されていた当時の日本において、2地点の角度測定が可能な測量用の機器としての途を開いたという、他国に例をみない独自の進化を遂げたのが六分儀でした。



タマヤ六分儀 MS2L

精密な金属加工と光学の技術が施された六分儀の出現は、これまで匠の技を駆使した手工業的な機器がほとんどだった日本の測量機器の発展に大きな役割を果たしたことは言うまでもありません。その意味では、“わが国の測量機器の近代化は、まさに六分儀から始まった”と言っても過言

ではないでしょう。

幕末の頃の国防意識と国土測量の機運が高揚したと相まって、測量用、大型船舶用の六分儀の需要が高まり、横浜イギリス商館との知己を得ていた当社もその存在を知り、早くから六分儀の輸入・販売を開始しました。また、明治中頃には、様々な外国製の測量機器の販売も手がけております。

現存する資料によれば、明治21年当時には、扱い商品が176品目にも達しておりました。

当社は、明治34年に合名会社玉屋商店として法人化し、それまで輸入に頼っていた測量機器の国産化を本格的に開始し、ポケットコンパスやプラニメーターの商品化を成し遂げております。

特に大正2年、東京天文台（現国立天文台）の依頼により完成させた1秒読み天文経緯儀（東京大博覧会出品:金杯受賞）の開発技術がベースとなって、大正7年、わが国初のトランシットとなる「玉屋製三等経緯儀」や「玉屋製二等水準儀」を生み出しました。



玉屋製三等経緯儀（大正7年）

当社は、昭和7年に株式会社に改組し、昭和58年にタマヤ計測システム株式会社と商号を変更しましたが、そのDNAは脈々と受け継がれております。

当社は現在、

- ①ダムたわみ計測器（プラムライン）、漏水計を主な商品群とする「ダム堤体観測機器事業」
- ②風向・風速計、雨量計、水位計等を主な商品群とする「気象・環境観測機器事業」
- ③デジタルレベル一等水準儀、航海計器等を主な商品群とする「位置情報計測器機事業」

の3つを事業の柱としておりますが、常に先人たちの残した知恵とチャレンジ意欲を忘れずに、日本における測器業界の草分け企業として、その誇りと更なる技術への探究心を持ち続けて、これからもより良い商品の提供に心がけて参ります。